

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|------------------------------------|-----------------|------------------------|
| 課題番号 | 21229009 | 研究期間 | 平成21年度～平成24年度 |
| 研究課題名 | 炎症を背景とした消化器発癌過程におけるゲノム不安定性の生成機構の解明 | 研究代表者 (所属・職) | 千葉 勉（京都大学・大学院医学研究科・教授） |

【平成23年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 |
|--|--|
| | A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| <p>(意見等)</p> <p>当初の研究目的に沿って着実に進められているが、研究課題の「ゲノム不安定性」の部分は、胃癌を用いた論文を除いて、十分な成果は挙げられていない。従って、その「生成機構」についても不十分な点が多い。一方で、各種の研究成果を幅広く挙げつつあり、公表もなされている。今後の計画も着実であるため、「ゲノム不安定性」に関するデータが蓄積すれば、期待どおりの成果が見込まれる。</p> | |

【平成25年度 検証結果】

| | |
|------|---|
| 検証結果 | 研究進捗評価結果どおりの研究成果がほぼ達成された。 |
| A | <p>本研究は発癌における炎症の役割を解明する目的で、炎症によって組織に誘導されたAIDが遺伝子変異、染色体不安定性、メチル化、それぞれの機序を通して消化器発癌に関わっていることを明らかにしようとするものである。これまでのところ「修復系の関与」、「メチル化の役割の解明」の一部を除いてほぼ当初の課題を達成している。今後は残された課題を含めて、その成果を社会的に周知させることにより、癌予防が更に進展することを期待する。</p> |